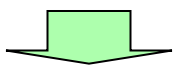


上越市(高田地区)中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年11月～26年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 江戸時代に高田城を中心とした城下町としてまちなみが形成される。その後、上越地域の商業・教育文化の中心地として発展
- 日本一長い雁木をはじめ高窓のある町家、60余の寺が連なる寺町、明治・大正期から庶民に親しまれている朝市などの歴史的・文化的資源が残っている
- 大型店2店舗とアーケード型商店街により2核1モールを形成していたが、平成14年に1店舗が撤退し、2核1モール構造が崩れ、中心市街地の活力が失われた
- 平成26年度に開通予定の北陸新幹線の効果を中心市街地に取り込む必要

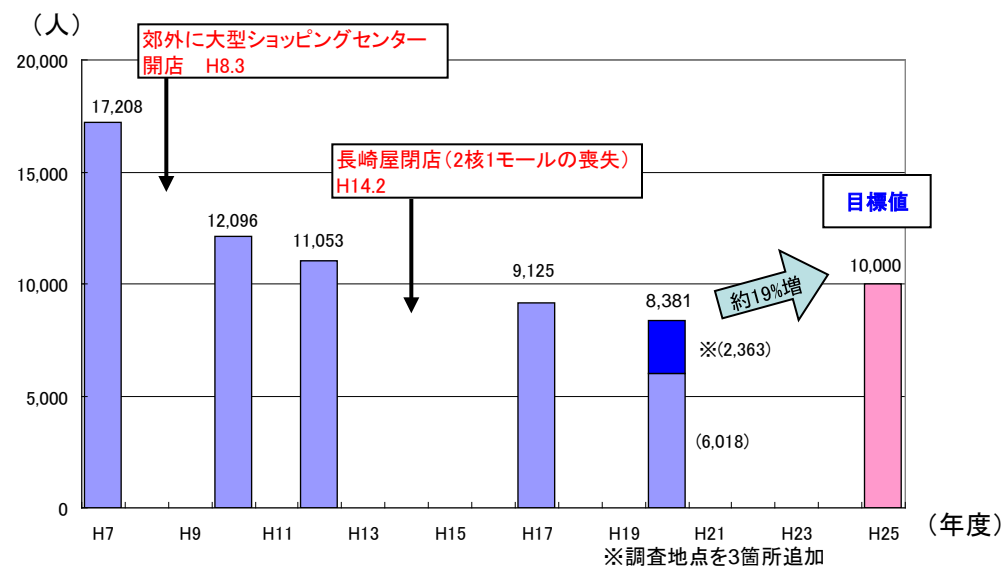


- 歩行者通行量(3調査地点合計の平日・休日平均)
H12:11,053人 → H20:6,018人(▲45.6%)
- 年間小売販売額
H9:279億円 → H16:166億円(▲40.5%)
- 居住人口
H8:8,828人 → H20:7,258人(▲17.8%)

【目標】

目標	指標	現況値(H20)	目標値(H25)
街のにぎわいの向上	歩行者交通量 (平日・休日平均 6地点)	8,381人	10,000人
商店街の魅力向上	年間商品小売販売額	14,293百万円	14,400百万円
まちなか居住の推進	居住人口	7,258人	7,290人

【歩行者通行量の動向と数値目標】



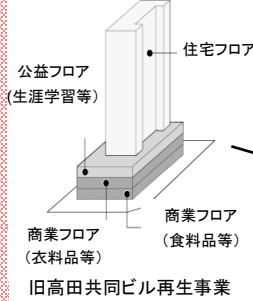
大型商業施設の撤退跡地において、商業・公益・居住の複合的機能を備えた新たな核施設を整備し、まちの中心に2核1モールを再構築するとともに、歴史的・文化的資源を活用し回遊性を高めることで、賑わいのある中心市街地を形成する

上越市中心市街地活性化基本計画(高田地区)の事業概要

2核1モールの再構築等による
にぎわいと魅力ある商店街づくり

○2核1モールの再構築

・H14に長崎屋が撤退した跡地に、**商業・公益・居住の複合施設**を整備することによって、**新たな核を構築**



・もう一方の核である百貨店(大和)周辺において、商店街主導により**年間を通じて種々のイベントを開催**

◇謙信SAKEまつり、高田花ロード 他



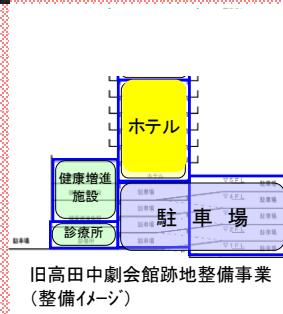
○東西軸の整備

・2核1モールと連なる**東西軸の整備**による回遊性の向上

◇浄興寺大門通の景観整備、駅前通り雁木整備、まちなかウォーキングロード 他

○新たな集客施設の整備

・映画館跡地において、医療・健康増進・アンチエイジング機能とホテル機能を複合的に組み合わせた**新たな集客施設**を整備することで、2核1モールに加えた新たな回遊・集客の拠点整備を目指す



歴史的資産の活用による回遊性の向上

○雁木整備の促進

・日本一の延長(16km)を誇る「**雁木**」の**保存修復・段差解消等のバリアフリー化**等により、高田の風情を残しながら快適に回遊できる環境を整備



雪国における生活通路でもある「雁木」

○まちなかの歴史的資産の利活用

・昔ながらの町家、築100年を迎える映画館等、まちなかに残る**歴史的資産を市民の文化活動の拠点等として再生**



町家を拠点施設に再生した「高田小町」

◇町家、映画館、第四銀行高田支店、寺町地区の寺院群 他



築100年を迎える映画館の再生(イメージ)



新たな総合文化拠点施設として整備予定の現第四銀行高田支店

まちなか居住の促進

・旧高田共同ビル再生事業等の**まちなか居住施設の整備**に加え、まちなか住宅相談窓口、有料老人ホームの整備、育児相談・障害者就労支援相談等を提供する**福祉総合拠点の整備**等、まちなかにおいてあらゆる年代層が**安心して暮らせる環境を整備**

